

# 野菜の展望

爽やかな空気に入れ替わり、朝晩の冷え込みも強まってきて、秋の訪れを感じられるようになりました。今月の野菜は、旧盆明け以降に連続して来襲した台風8～16号が齎した北海道・東北での大雨被害により、入荷量は少なめとなって前年よりも高値での価格推移となりそうです。

葉茎菜類の白菜は長野産主体の入荷ですが、概ね安定した入荷となっています。下旬からは石川・茨城産も加わる予定です。キャベツは群馬・長野産の入荷で、中旬には石川産も加わる予定です。葱は石川・北海道産中心で、バラ物については関東・東北産地からの入荷となります。小ねぎについては静岡・愛知・福岡産の入荷です。ほうれん草は飛騨高冷地主体に石川・関東産の入荷があり、中旬からは群馬産も始まります。レタスについては上旬が長野産中心となり、中旬からは茨城産へと移行します。ブロッコリーは石川・北海道・長野産の出回りで、北海道・長野産ともに中旬にて終了となります。石川産については上旬より安定した入荷が見込まれます。

根菜類の大根は石川産中心ですが、北海道・青森・岐阜産は早期終了が見込まれます。人参は北海道主力に青森県高冷地からの入荷を見込んでいますが、シーズン終了まで当分、極端に少ない入荷の見込みです。蓮根は石川産メインに茨城産で、石川産は中旬より前日掘り作業も始まるため、数量は増加となります。甘藷は石川産主体で、その他茨城からの入荷も予定されています。里芋は宮崎・福井・新潟産の入荷となり、福井産については下旬からの入荷予定です。かぶも青森産が壊滅的な被害を受けており、シーズン終了まで少ない見込みです。

菌茸類の松茸は中国・韓国・米国等の輸入物中心に、国内（石川・長野）産が加わります。椎茸は石川産菌茸物を中心として富山・岐阜・兵庫・徳島産も出回り、安定した入荷となります。なめこは石川・岐阜・長野産主体に石川産原木物も加わります。えのきは石川・長野・新潟産中心に潤沢な入荷が見込まれます。しめじ類は長野産中心で、日々安定した入荷予定です。またこの時期は天然物キノコ類がピークを迎え、芝茸を中心として多品種の入荷となります。

果菜類の胡瓜は石川・群馬・福島産に、中旬からは高知産の入荷も始まります。福島・山形産については上中旬にて終了となります。茄子については、中茄子が石川・高知・山形・群馬、長茄子は茨城・熊本からの順調な入荷が見込まれます。トマトは石川・愛知産を中心に、南瓜は北海道産が中心となり、共に安定した入荷量が期待できそうです。

土物類の馬鈴薯は北海道産が主体です。台風による水害の影響から、全体的に前年よりも入荷量は減少すると見られます。玉葱については北海道産の入荷となり、2L・L大など大玉中心に各サイズ順調な入荷が予想されます。ごぼうは青森産主体に安定した入荷となり、能登産の汐風ごぼうも前年並みの入荷が見込まれます。

秋本番を迎え、いよいよ「食欲の秋・味覚の秋」がやってきます。秋冬野菜も本番に入り、煮物・鍋物野菜の需要も上向きになると思われます。多彩な企画立案による拡販を宜しくお願いいたします。

《野菜第三部部長 杉本智則》

# 果実の展望

いよいよ秋本番を迎えて、秋冬果実の本格シーズンに入ります。

みかんは福岡・長崎・和歌山産主力に極早生の入荷が始まります。本年産みかんの作柄は表年となりますが、出荷量は昨年とほぼ同量を見込んでいます。集中豪雨及び日照不足と気象条件の厳しいシーズンでしたが、数量は見込み通りの予想です。果実肥大は小玉傾向で、酸切れは良いと思われま

柿は和歌山産の刀根、平核無、福岡・愛知・岐阜産の西村、伊豆、松本、次郎、富有、筆柿の入荷となります。各産地ともに平年並みの入荷となる見込みです。

りんごは中生種で長野産（シナノスイート、秋映、ジョナゴールド）主力に青森産（ジョナゴールド、王林）が出揃ってきます。

梨は県内産のあきづきは前倒しの出荷によりほぼ終了となり、新高の販売となります。県外産新高梨は上旬からの入荷予定です。

ぶどう類は長野産の巨峰や山梨産の甲斐路、岡山産のアレキサンドリア、シャインマスカット等を中心とした大粒系の入荷で、数量は前年並みと予想されます。

瓜類については、静岡産メロンは生産者の減少により、前年よりも少ない出荷となります。石川アールスについては、4・5玉中心で前進出荷傾向となっており、中旬に終了予定となっています。北海道のらいでん（赤肉）メロンは前年並みの入荷となる見込みです。

いちじくは石川産を主力に愛知産の出回りです。栗は各産地、不作により前進出荷も相重なり、入荷減の見込みです。

輸入果実のバナナはフィリピン産主力に南米産の入荷です。フィリピン産は産地の天候不順により入荷量は減少し、高値推移となる見込みです。オレンジはオーストラリア産ネーブル種とバレンシア種、及び南アフリカ産のバレンシア種の販売で、バレンシアについては小玉傾向と見られます。グレープフルーツは前半に南アフリカ産ルビー種の残量の販売。下旬よりフロリダ産ルビー種、及びホワイト種の販売がスタートします。レモンはチリ産中心ですが後半よりカリフォルニア産新物の入荷が始まります。パインアップルは前月からの数量減少から回復傾向にあります。ニュージーランド産のキウイフルーツはグリーンのみとなりますが、安定入荷です。その他、秋商材として乾燥果実の干芋、甘栗の販売が本格化しますし、韓国産のむき栗、カリフォルニア産のザクロ、ハネジュウメロン、レッドグローブやシードレスぶどう等も入荷いたします。

以上、今月も一層の拡販をお願いいたします。

《常務取締役（野菜本部長） 大西信哉》